

資料配布の場所

- ・国土交通記者会
 - ・国土交通省建設専門紙記者会
 - ・国土交通省交通運輸記者会
 - ・筑波研究学園都市記者会
- (平成 28 年 6 月 30 日同時配布)

平成 28 年 6 月 30 日

国土交通省
国土技術政策総合研究所

**「人口減少や都市の縮退に対応した緑の基本計画の方法論に関する研究報告書」を公表
～地方公共団体による計画策定・改訂を支援～**

○ 国総研では、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて設置した「今後の緑の基本計画※のあり方に関する研究会」における学識者との議論や、国内外の先進的な取組事例の収集・分析等に基づき、これからの都市緑地計画についての新たな着眼点や、計画策定に有効と考えられる手法・技術を示した技術資料としてとりまとめ、公表しました。

1. 少子高齢化による人口減少社会に突入した今日、都市経営は大きな転換期を迎えています。都市緑地計画においても、“都市が拡大基調にある中で如何に緑地を確保するか”から“拡大を前提としない社会でも緑を通じたまちづくりによって人々の豊かな暮らしを如何に実現するか”へとその主眼を移行し、幅広い視点から計画内容を高め、都市形成に関与していくことが求められています。
2. そこで、国総研では、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて「今後の緑の基本計画のあり方に関する研究会」を設置し、今後の緑の基本計画に求められる新たな役割や方向性について学識者と議論を行うとともに、国内外の先進的な取組事例の収集・分析を行うなど、“緑の基本計画の新たな展開を探るためのパイロット的な調査研究”を進めてきました。
3. 本書は、このような調査研究の成果として、これからの都市緑地計画についての新たな着眼点や、計画策定に有効と考えられる手法・技術を示した技術資料として、とりまとめ・公表したものであり、地方公共団体における緑の基本計画等の都市緑地計画の策定・改訂の際に活用いただくことを意図しています。本書は、どなたでも国総研のホームページからダウンロードできます。

(ダウンロード先 URL) <http://www.nilim.go.jp/lab/ddg/index.htm>

※ 「緑の基本計画」(緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画：都市緑地法 4 条)は、都市における緑地の保全および緑化の推進に関する措置について総合的かつ計画的に実施するためのマスタープランとして、平成 6 年に制度化したものです。平成 26 年度末時点で 673 の市区町村で計画策定済みとなっています。

【問合せ先】国土技術政策総合研究所 社会資本マネジメント研究センター

緑化生態研究室 (担当：栗原、荒金)

電話：029-864-2742 (研究室直通) F A X：029-864-0598

【ポイント】これからの社会を支える都市緑地計画の展望

人口減少や都市の縮退等に対応した緑の基本計画の方法論に関する研究報告書

「今後の緑の基本計画のあり方に関する研究会」における学識者との議論

平成25～27年度にかけて国総研が設置した「今後の緑の基本計画のあり方に関する研究会」における学識者との議論に基づき、人口減少社会の到来などの社会状況の変化を踏まえた今後の緑の基本計画等の都市緑地計画に求められる新たな役割や方向性について、解説している。

都市における社会的課題

急激な人口減少、
高齢化の進行

自然災害リスクの
高まり

地球環境問題の深
刻化

都市間競争などグ
ローバル化の進展

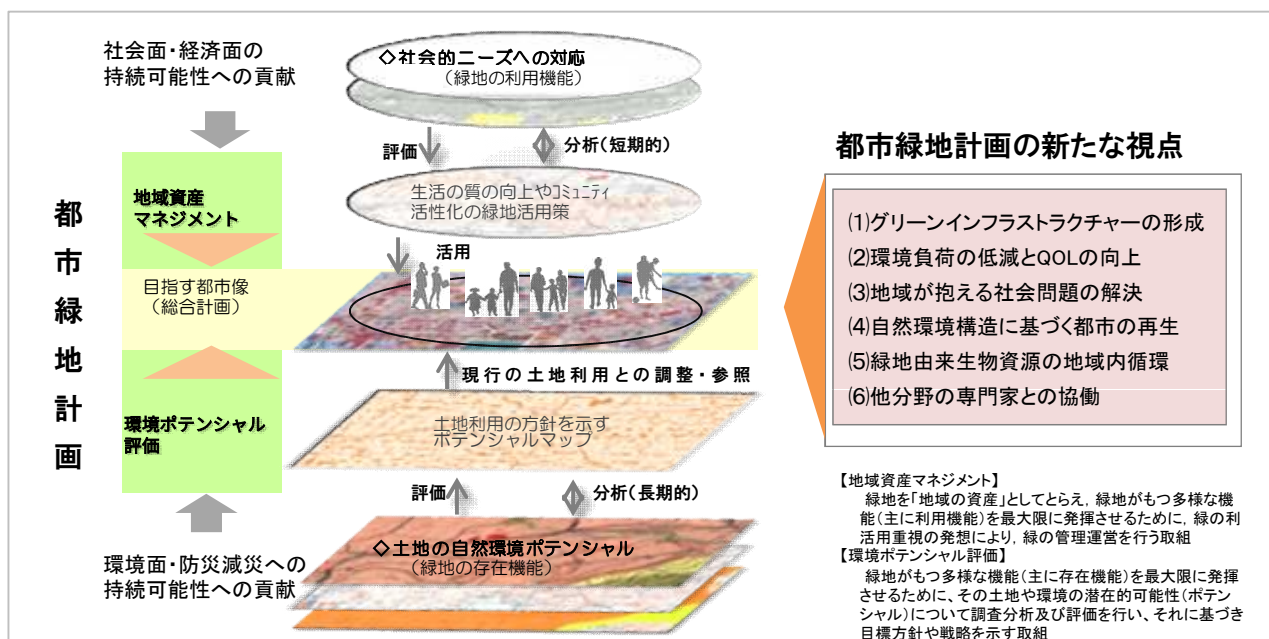
今後の緑の基本計画のあり方に関する研究会（敬称略・五十音順）

雨宮 護
木下 剛
篠沢 健太
寺田 徹
村上 暁信

筑波大学システム情報系
千葉大学大学院園芸学研究科
工学院大学建築学部
東京大学大学院工学系研究科
筑波大学システム情報系

准教授
准教授
教授
特任講師
准教授

■ これからの都市政策における都市緑地計画の位置付けと新たな視点（イメージ）



国内外の先進的な取組事例の解説

国内外の先進的な取組事例の調査に基づき、これからの緑の基本計画等の都市緑地計画の策定・改訂に有効と考えられる技術・手法（35事例）について、解説している。

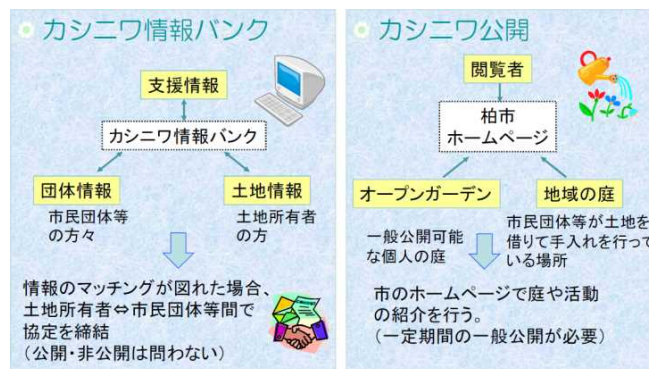
■ グリーンインフラ戦略（リバプール市・英国）



→市域の62%の土地をグリーンインフラとみなし、グリーンインフラのタイプ毎にその多機能性の発揮に向けた戦略を示している。

出典: Green Infrastructure Strategy Technical Document

■ カシニワ制度※（千葉県柏市）



→未利用地を活用したコミュニティガーデンづくりを推進している。

※カシニワ＝「かしの庭」と「貸す庭」をかけた造語

出典: 柏市ホームページ（カシニワ制度）

http://www.city.kashiwa.lg.jp/living/living_environment/1384/1387/1389/index.html

【概要版】これからの社会を支える都市緑地計画の展望

人口減少や都市の縮退等に対応した緑の基本計画の方法論に関する研究報告書

第1章 これからの緑地に求められる緑地の役割

【概要】

人口減少社会の到来などの社会状況の変化を踏まえた上で、都市の方向性はどうあるべきか、緑地はその方向性に対してどのように貢献すべきか、現在直面している社会的課題等を踏まえた上で解説する。

(1) 都市における社会的課題と緑地による課題解決の可能性

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ①急激な人口減少・少子高齢化の進行 | ②自然災害リスクの高まり |
| ③地球環境問題の深刻化 | ④都市間競争などグローバル化の進展 |

(2) 都市の持続性を高める緑の多様な機能

- ①環境面・社会面・経済面の持続可能性への貢献 ②緑の多機能性 ③緑の存在価値と利用価値
 (3) 都市の方向性と緑地に求められる貢献

環境面での持続可能性への貢献
 ・環境共生社会

社会面・経済面での持続可能性への貢献
 ・安全安心の確保 ・地域コミュニティの醸成
 ・健康福祉の向上 ・経済・活力の維持

第2章 これからの都市緑地計画の位置づけ

【概要】

第1章で示した緑の多機能性を発揮させていくために、あるいは緑の存在・利用価値を高めていくために、これからの都市緑地計画には、「環境ポテンシャル評価」と「地域資産マネジメント」の2つの位置づけを一層強化していくことが求められるとした上で、それぞれの考え方について解説する。

(1) 環境ポテンシャル評価

(2) 地域資産マネジメント

第3章 都市緑地計画の新たな視点

【概要】

平成25～27年度に、「今後の緑の基本計画に関する研究会」を開催し、そこで学識者から示された、これからの都市緑地計画を作成する際に着目すべき6つの視点について、解説する。

(1) グリーンインフラストラクチャーの形成

(2) 環境負荷の低減とQOL(生活の質)の向上

(3) 地域が抱える社会問題の解決

(4) 自然環境構造に基づく都市の再生

(5) 緑地由来生物資源の地域内循環

(6) 他分野の専門家との協働

第4章 これからの都市緑地計画の策定に関する技術手法の事例

【概要】

第3章までの考え方や視点を踏まえた上で、これからの都市緑地計画を策定する際に有効と考えられる技術・手法の具体的な事例について解説する。

(1) 環境ポテンシャル評価に関する計画技術手法

(2) 地域資産マネジメントに関する計画技術手法

(3) 都市の社会的課題の解決に関する具体的施策

(4) 進行管理

第5章 今後の研究・検討課題

【概要】

最後に、これからの都市緑地計画の方法論の更なる発展に向けた、今後の研究・検討課題を解説する。

今後の研究・検討課題